

不満が出てくる。モーターの低下や企業からの脱出がでてくる。

播磨と相生産校の場合も去年からはじまつたばかりですから、今のところ何ともいえませんが、企業内の訓練体系があれほどがつちりしていると、連携による工高卒の養成工が一定の厚みの層になつてくると、彼等自身どういふ問題を考へてくるか、またそれに対して企業の側がどういふ手を打たなければならなくなるかということは今後に残された問題であると考へる。

教育投資の面からみても、その実態を少し

紹介しておくことに止めますが、多くの問題をかかえているといえよう。石川島播磨から旧技術員養成所の訓練施設を相生産校に提供しよう協定がなされているが、実際運ばれてきたものの中には使いものにならないものもあつたとか、学校に対する企業の投資が計画通りにはこぼれてない形跡もあり、学校のほうの施設が企業の寄附以外に増設されていないということから実習や授業の面で学校管理、設備管理に無理が生じ、経営がはんぎつになつているという実態も見おとせないことである。(文責 H)

文部教研と作業の安全について

先日、日教組本部の方から38年度の文部教研の各分科会のテーマが決つた由を聞いたが、それによれば技術・家庭科(男子向)のテーマは次の通りである。

製作の段階の指導において、生徒の創造的思考力を伸ばすためには、どのように指導したらよいか。「中学校学習指導要領技術・家庭A男子向」に示されている各項目の製作学習において、単なる技能の習熟にかたよることなく、また興味本位に流れないようにするためには、教科書をどのように活用し、どんな資料を準備し、いかなる指導過程を重視したらよいかについて研究する。

文部教研そのものの問題は別として、上に引用したようなテーマを、文部省がアマクダリに決めたことについて、私の二・三の感想を記しておきたい。

①まず、はじめから研究の内容が「学習指導要領……に示された」ものに限られたことについて、教師の研究が学習指導要領という厳しい枠にはめ込まれていることが特長的だと思う。教師の研究の自由が、著しく侵害され

るわけである。

②上と同じことではあるが、研究テーマが教科書の活用のしかた、授業に用意すべき資料、重視すべき指導過程の研究にしばられていることは、教師の教育研究をいわゆる教育技術の枠の中にはめ込んで教材そのものの研究を全く認めないことを意味している。とくに教科書の活用のしかたを研究させることに至つては、学習指導要領のみならず厳しい検定のわく内で通つた教科書をもおしつけようとする意図が露骨にあらわれている。

③製作学習は、現実の日本では、どのようにうまく組織したにしても、物づくりの労働を通じて勤労精神主義教育に傾斜する危険をふくんでいる。研究テーマをその製作学習に限定したということにより、現場教師は研究の名において製作学習を強要されることになる。しかも現実には、製作学習を強要することは、2クラス合併の授業では金属加工でも木工加工でも実施することは本来不可能事であるということの責任を、全く現場教師に転荷することを意味している。(「できるはずだから、研究してみる」と云つているわけだ。)

④金属加工関係の施設・設備が極めて不十分なこと(文部省が充実のために何らの努力も

していないこと)、学習指導要領が木材加工により多くの時間を配当していること、などの理由から、製作学習は必然的に木材加工学習に重点がおかれることが予想される。ところで文部省は、木材加工学習には物をつくる作業それ自体のほかには教えるべきものが甚だ貧弱であること、木工機械の操作は中学生にとつては想像以上に危険であることには完全に眼を覆っているという事実注目しなければならぬ。

⑤製作学習にともなう作業の危険防止について、文部省が何らの配慮をしていないことは全く許しがたい。昨年6月に長崎県教委が、作業にともなう災害の防止にそいて(何らの予算措置などの具体策をとることなく)一片の通達を出して、作業の安全についての責任を全く現場教師に転荷しようとしている事実があるので、作業における安全の対策については、文部省はじめ教育行政当局にとくに厳重に責任を追求してゆく必要があると思う。

(佐々木 享)

◇

< 運営委員会だより >

4月の例会は製図教育からみた図画教育への注文といったような問題を扱いたいと思っています。そのために特に「新しい絵の会」に属している現場の先生に御出席を願い、美術教育運動の側からも技術教育に注文をつけてもらおうと思います。肝心の技術教育の側の出席が悪くては運営に支障をきたす(?)ので、どうか多数の御参会のほどを期待しています。久しぶりに代田サービスセンターにもどってきました。ここしばらく道路拡張工事のため使えなかつたのです。出席者の数が余り少いと来月から会場の使用を断られるおそれがありますので、そういう意味からも皆様の御出席を期待するわけなのです。(会場費のいらない会場を確保することはなかなかやつかいなことです)